

ゼロカーボンミーティング in 北信州

地球温暖化と雪

参加
無料

～どうなる？北信州の雪と暮らし～

「雪」をキーワードに、地球温暖化が、雪と密接に関係する北信州の生活や産業に今後どのような影響を与えるのか、一緒に考えてみませんか。

2025年
11月19日(水)
13:30～15:50



飯山市文化交流館
なちゅら小ホール

第1部

基調講演

13:40～14:30

地球温暖化で
日本の雪・信州の雪は
どのように変わるのか



気象庁気象研究所 応用気象研究部
第一研究室室長

川瀬 宏明氏

第2部

パネルディスカッション

14:40～15:50

質問・疑問大募集!

北信州の雪と
暮らしを考える

みなさんからの雪に関する
疑問・質問を元に、各方面の
スペシャリストがお話しします。



パネリスト

河野 健児氏

nozawa green field代表
(株)野沢温泉企画代表取締役



パネリスト

佐藤 嘉一氏

佐藤農園代表 / ながの農業協同組合
アグリパートナー担当理事副委員長



パネリスト

尾日向 梨沙氏

雪国飯山ソーラー
発電所オーナー/編集者



ファシリテーター

浜田 崇氏

長野県環境保全研究所自然環境部長

お申込みはこちらから

申込メ切 11月12日(水)

お申込みの際、日ごろ気になっている「雪」に関する質問、疑問などをお寄せください。
パネルディスカッションで、それらについてパネリストの皆さんにお話しいただきます。



お問い合わせ先 長野県北信地域振興局環境課

TEL 0269-23-0202(直通)

講師

川瀬 宏明 氏 (かわせ ひろあき)

気象庁気象研究所 応用気象研究部 第一研究室室長

1980年生まれ。三重県松阪市出身。

筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程修了、博士(理学)取得。気象予報士。海洋研究開発機構、国立環境研究所などを経て、2014年より気象研究所研究官、2017年より主任研究官を経て、2025年から現職。地球温暖化に伴う日本の豪雨や豪雪の将来予測研究などを行っている。日本気象学会正野賞、日本雪氷学会平田賞を受賞。著書に「極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか」「地球温暖化で雪は減るのか増えるのか問題」など。



河野 健児 氏

パネリスト

nozawa green field代表
(株)野沢温泉企画代表取締役
(一社)Pow Japan アンバサダー

1983年生まれ。長野県野沢温泉村出身。31歳までスキー選手として活動。その後、故郷である野沢温泉村を拠点に、1日1組限定のTREE CAMPや自然体験を提供する

“nozawa green field”や、SUPガイドツアーなどを企画・開催しながら、1年を通して自然の中に身を置き、アウトドアスポーツの魅力を発信している。また、THE NORTH FACEアスリートとしての一面を持ち、同ブランドを始め、VECTOR GLIDE(スキーブランド)、PEAKS5(SUPブランド)など様々なアウトドアブランドでのギアの開発に携わっている。



尾日向 梨沙 氏

パネリスト

雪国飯山ソーラー発電所オーナー
/編集者

1980年生まれ。東京都出身。早稲田大学第二文学部卒業後、13年間、スキー専門誌『Ski』『POWDER SKI』(実業之日本社)などの編集を担当。2013年より同雑誌の編集長

を務める。2015年、フリーランスとなりスノーカルチャー誌『Stuben Magazine』を創刊(現在7号まで発刊)。

2020年、湘南から長野県飯山市へ移住。家庭菜園や豪雪地での太陽光生活など、自然に寄り添った暮らしを目指しながら、信州の雪や自然を題材に多角的に発信中。



佐藤 嘉一 氏

パネリスト

佐藤農園代表
ながの農業協同組合
アグリパートナー担当理事副委員長

1957年生まれ。長野県飯山市出身。「飯山の米の価値を高め、地域全体がおいしい米の産地だと伝えたい」と、1996年、飯山市木島地区で「農事組合法人ファームステー

ション木島」を発足(99年法人化)。代表として、水稻を中心に育苗と作業受託を行いながら、JAと連携した減農薬栽培や土づくりの研究を实践。また、飯山の米の販売に結びつけようと、米の食味を競う全国大会へ出品し、数々の賞を受賞。現在は代表を退き、JAながのの担当理事を務めながら、米づくりをはじめ、信州の伝統野菜づくりにも携わっている。



浜田 崇 氏

ファシリテーター

長野県環境保全研究所
自然環境部長
信州気候変動適応センター
スタッフ(兼務)

1967年生まれ。東京都出身。

東京都立大学大学院理科学研究科博士課程単位取得退学。

専門は気候学・都市気候学。長野県

環境保全研究所では、県内の気候変動の実態把握や都市の中のグリーンインフラによる環境緩和効果の研究などに従事。最近では、県内の地場産業(発酵食品)への気候変動影響の調査を高校生や大学生などと連携して実施したり、果樹の凍霜害発生時の気象条件などを調査している。



ゼロカーボン^{*}とは？

温室効果ガスの「排出量」ー森林などによる「吸収量」= ±0「ゼロカーボン」

ゼロカーボンとは、企業や家庭が排出する二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林による「吸収量」などを差し引いて、排出量の合計を実質的にゼロにすることをいいます。

ゼロカーボンの実現のためには、再生可能エネルギーの導入や省エネの推進などにより二酸化炭素の排出量を減らすことが必要です。

※「カーボンニュートラル」「脱炭素」ともいう。